

社会医学系の 専門医制度に向けて — 現状とこれから —

2016年3月
社会医学系専門医協議会

1

社会医学系の専門医制度の 確立に向けて

使命感、倫理性、誇りと公共への責任を
もって医療・公衆衛生の向上に貢献し

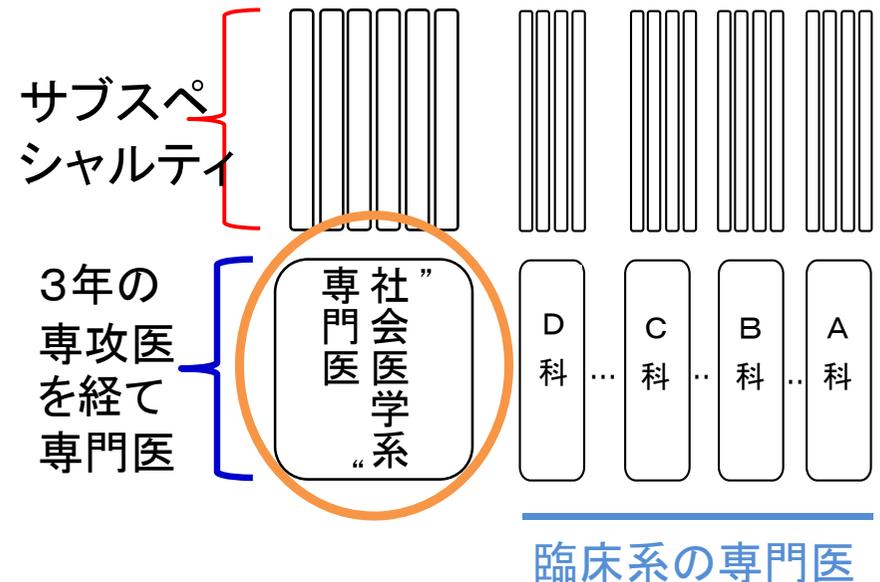
- ・国民に信頼される専門医の制度
- ・専門医の質を保証し向上させる制度を
着実に確立することを目指す。

2

社会医学系の専門医制度

- ・社会医学系におけるキャリアパスを明確にし、
- ・専門的活動の内容と意義を関係者および国民に見えやすくし、
- ・その研修プログラムを体系化して一層の向上を進めて行くものである。
- ・これを共通の基盤とし、さらなる各専門領域の専門医(サブスペシャリティ)制度が構築されていくことになる。

3



4

社会医学系専門医協議会 構成団体

- 日本衛生学会
- 日本産業衛生学会
- 日本公衆衛生学会
- 日本疫学会
- 日本医療・病院管理学会
- 日本医療情報学会
- 全国保健所長会
- 地方衛生研究所全国協議会
- 全国衛生部長会
- 全国医育機関衛生学公衆衛生学教育協議会

オブザーバー/アドバイザー：日本医学会連合(社会部会)、
国立保健医療科学院、厚生労働省

5

経緯

- 2015/6/5 10学会・団体の共同提言 公表「提言：社会医学領域の専門医制度の確立について」
- 2015/7/28-29 社会医学系の専門医制度に向けてのワークショップ（10学会・団体より参加）
- 2015年9月11日 社会医学系の専門医制度に関する協議会 発足、委員会・WG活動開始
- 2016年度に入り、制度・研修プログラムについて順次、説明会等を開催する（5月～）
- 2017年度から専攻医受入れることをめざす

6

専門医制度の理念

本専門医制度は、個人へのアプローチにとどまらず、多様な集団、環境、社会システムへのアプローチを中心として、人々の健康の保持・増進、傷病の予防、リスク管理や社会制度に関してリーダーシップを発揮する専門医を養成する。もって、多世代・生涯にわたる健康面の安全、安心の確保と向上に寄与する。

専門医の使命

本専門医は、医師としての使命感、倫理性、公共への責任感を持ち、医学を基盤として保健・医療・福祉サービス、環境リスク管理および社会システムに関する広範囲の専門的知識・技術・能力を駆使し、人々の命と健康を守ることを使命とする。

活躍する領域 1/2

- 地域や国の保健・医療・福祉・環境行政に携わる人材
- 環境衛生、衛生研究所・環境研究所等の研究に携わる人材
- 感染症対策等に携わる人材
- 産業衛生など職域集団の健康維持・増進を担う人材、産業医
- 大学等で研究・教育を担い、地域や国の保健・医療・福祉・環境保全の活動、制度やシステムに携わる人材

9

活躍する領域 2/2

- 国際保健(コミュニティヘルス、国のシステム)に携わる人材(国際機関、NGO、コンサルタントなど)
- 保健・医療・福祉などの組織管理、質・安全管理、情報管理を担う人材、それらの評価・向上を担う人材、それらに関わる政策づくりに携わる人材
- 保健・医療・福祉・環境分野における関連研究開発(臨床研究含む)と開発物の社会実装、およびその過程の制度的側面・倫理的側面の評価・支援・指導に携わる人材
- 医療・健康の関連産業・企業等に関わる人材等

10

社会医学領域の専門医に求められる 基礎的能力

医学に関する専門的知識・技術を基盤として

- 分析評価能力
 - マネージメント・管理能力
 - コミュニケーション能力
 - パートナーシップの構築能力
 - 教育・指導能力
 - 職業倫理に関連する能力
- (以上、日本公衆衛生学会専門職検討委員会資料(2007.04.09.)より)
- 国民の健康(公衆衛生)および公共の利益に資する解決策の提案能力

11

2015/09/11

社会医学系の専門医制度に関する協議会 発足
(社会医学系専門医協議会)

委員会

ワーキンググループA 研修プログラム等

ワーキンググループB 組織のあり方等

ワーキンググループC 研修施設・指導医の認定

12

進捗状況(2015年度内に案完成)

- 専門研修プログラム整備基準
- 専攻医研修マニュアル
- モデルプログラム
 - 職域
 - 行政機関
 - 医療機関
 - 教育研究機関

※「指導医マニュアル」、「実績記録システム(仕様)」は2016年度できるだけ早期に随時完成の予定

13

専門研修の場

経験する課題の3分野： 行政・地域
産業・環境
医療

実践現場： 行政機関
職域機関
医療機関
教育研究機関

14

方向性

- 日本専門医機構との関係を重視
- 臨床との往来や兼担を重視する
- 系内の領域間の往来や兼担も重視
- 柔軟で現実的な仕組みをつくる
- 行政医、産業医、さらに環境、地域、病院、国際、大学等を場とした活動を広く、捉える
- 総力を挙げた指導体制をめざす
- 中長期視点で次第に向上する仕組み

15

今後に向けて 1/2

○ 能力体系の明確化

- * 能力体系の整備・見える化
- * 専門医・専門性の見える化

○ 人材育成システムの強化

- * 各学会・団体等および共同で、体系化と充実を推進する。
- * 指導者、メンターの育成・関わり方(育成システムに組み込む)。
- * 自己学習・生涯学習の位置づけ、専門医のネットワーク化、など重要事項

○ キャリアパスの情報発信

- * キャリアパス、ロールモデルの可視化、情報発信

16

今後に向けて 2/2

○ 専門医制度における共通基盤と専門分化

- * 社会医学系の共通基盤を強化する。さらに、
- * それぞれの領域の専門性(サブスペシャリティ)を高める。
- ☆ 今後、各学会をベースにサブスペシャリティ専門医のしくみづくりに繋げていく。

○ 中長期を臨む計画・実行と専門医制度の社会的貢献 (総力を挙げた育成体制の構築)

- * 可能なところから始め、次第に充実させるべく、中長期計画で一貫性をもって進める。
- * 当専門医制度の社会的貢献を、社会により見えるようにする。
- * 全国津々浦々どこにいても、研鑽を積める、資格を獲得・維持できる、体制・制度をつくる。

17

社会医学系専門医協議会

URL

<http://shakai-senmon-i.umin.jp>

e-mail

senmonshakai-office@umin.ac.jp

整備基準等へのパブリックコメント受付期間

3月30日(水)～4月27日(水)の4週間